

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2017年1月21日～2017年1月27日の推移】

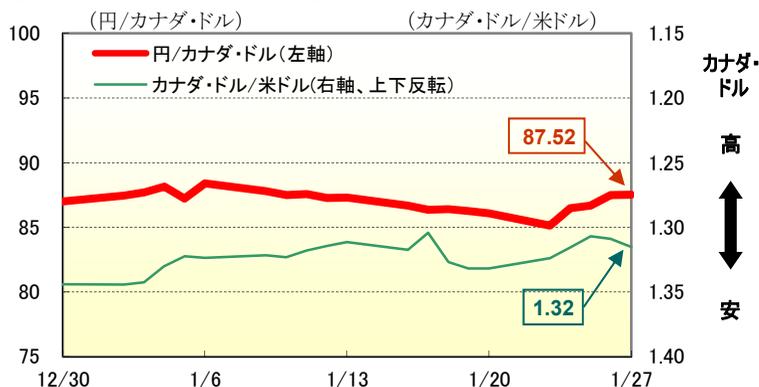
【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円相場およびカナダ5年国債利回りは上昇しました。

トランプ米国大統領がカナダから米国に原油を輸送する「キーストーンXL・パイプライン」の建設を推進する大統領令に署名したことで、トランプ政権のインフラ(社会基盤)推進姿勢が確認されたほか、カナダの資源産業の設備投資を促すとの期待が高まりました。これらが、カナダの景気にプラスの材料と意識され、金利およびカナダ・ドル円相場は上昇しました。また、世界的に株価が堅調に推移するなど、市場のリスク選好度が強まったことも、金利およびカナダ・ドル円相場の上昇要因となりました。

一方で、米国のGDP(国内総生産)や耐久財受注などの経済指標が市場予想を下回ったことは、カナダの金利上昇を抑える要因となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2016年12月30日～2017年1月27日)



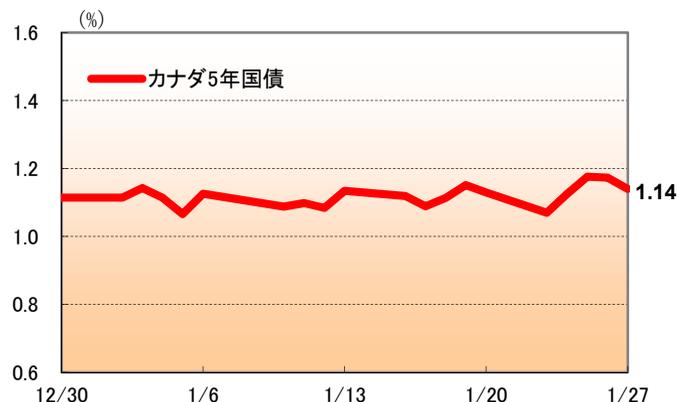
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

今週は、米国でFOMC(米国連邦公開市場委員会)、日本では日銀の金融政策決定会合が開催されます。FOMCでは政策金利の据え置きが見込まれていますが、利上げに対する積極的な姿勢が見られれば、金利上昇や円安の要因になると考えられます。日銀の金融政策決定会合は現状の金融政策が維持される見込みで、市場への影響は大きくないとみています。

経済指標では、米国の雇用統計やカナダのGDPなどが発表予定です。引き続き、トランプ米国大統領の動向にも市場の注目が集まるとみています。

【カナダ 金利推移】 (2016年12月30日～2017年1月27日)



【3】主要経済指標

発表日	発表頻度	期間	指標名	データ	(参考) 前回
1/31	毎月	2016年11月	GDP(前月比)	-	-0.3%
1/31	毎月	2016年11月	GDP(前年同月比)	-	1.5%

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>